

# 溶接出前授業や工場見学

## 高校生の就職先に地元企業をアピール

岩手県の橋梁・水門メーカー、中央コーポレーション(本社・花巻市、佐々木史昭社長)は岩手県溶接協会の事業の一環として、地元工業高校へ溶接出前授業を行い、同校生の工場見学を受け入れるなど、鉄構業のものづくりの面白さを実感してもらう活動を進めている。

昨年2月に岩手県溶接協会副会長を務める佐々木社長自らが講師となり、岩手県立黒沢尻工業高校機械科1、2年生約80名に出前授業を行った。1コマ目は社長の実体験に基づく「鉄構業のものづくり」として、普段気にせずに通っている橋梁をとっても、供用開始後の使い勝手、メンテナンスのしやすさ、耐久性等に配慮

された設計が必要で、材料手配、原寸、加工、組立、溶接、歪取り、検査、塗装、運搬、現地架設、床版・舗装等現地工事、供用後のメンテナンスまで総合的に最適化が図れる橋梁メーカーには技術革新の芽がたくさんあり、地域への貢献、社員のやりがい、ひいては給料の高さにつながっていく。その不断の努力こそ地域創生そのものであり、みなさんの活躍の場は身近なところにある、という持論を平易な言葉で説明した。2コマ目は、岩手県溶接技術競技会で優勝した同社社員と、同校OBの20歳代若手社員によりアーク溶接と半自動溶接の実習を行った。5月には同校機械科3年生約40名が同社工場を訪れ、実際に鋼製橋梁やステンレス製水門を設計、製作している状況を見学した。「これらの事業を連動させたことでさらに有意義なものになっ



佐々木社長

た高い評価をいただいた。見学会は当社ホームページでも広報しており、随時受付している(佐々木社長)。

佐々木社長は今年度から岩手県鉄構工業協同組合の理事長に就任し、花巻商工会議所の副会頭も務めることになった。人手不足が深刻化し、空前の売り手市場が続く高校生の就職活動において、生徒も保護者・教師も名前の知られた大手企業に目が向きがちだが、若年

層の将来にわたる幸福と、国家のバランスの取れた発展に地域創生は欠かせず、設備と雇用が一定のスケールに必要な鉄構企業は地域を代表する優良企業としてもつと存在感を発揮すべきと言う。グローバル市場で利益を上げ株主価値の最大化を目指す大手企業と、地域に密着し雇用の維持、地域への貢献を第一に考えるローカル企業とは経営理念が根本的に異なり、そのことを地元高校関係者に理解してもらい、地元の優良企業に勤めることこそ高校生



シェルゲートを見学

の真の幸せにつながるという旗を振りたいと語る。

現在は、東日本大震災の復興工事で、岩手県沿岸部の津波対策用大型シェルゲート、ステンレス水門、アルミニウム陸開の製作、据付工事に忙しく、橋梁においても、岩手県内企業同士のJVで橋長約430m、重量約1700トンの大型橋梁を現場工事中である。東北新幹線の高速化に伴う緩衝工の受注も増えている。数年後に迫り来る復興工事の後を見据え、役員や管理職の世代交代を積極的に進めている。

### ◆現在の活況「その後」を見据えて世代交代

同社はJR東日本の列車荷重が載荷される重要構造物も数多く手がけており、いわゆるJRすみ肉溶接技量資格者も18名と多く、平均年齢も30歳と若い。また、

## JETRO番組でモルドバ事業紹介

### メタルプロダクツ(山形)

山形県のRグレードファブ、メタルプロダクツ(本社・最上郡真室川町、渡邊進社長)はこのほど、日本貿易振興機構(JETRO)が制作する経済情報番組「世界は今/ジェットロ・

グローバル・アイ」の「知られざるモルドバ・ビジネス」で紹介された。写真は、番組は東欧モルドバの概要と日系企業が進出している現況を紹介。その後、同社がモルドバで現地法人の図面会社を設立した経緯、実際の仕事、インターネットの中継を活用して人材採用の面接を行う場面などを紹介した。モルドバ人技術

者が「日本の高度な技術に身につけたい」「国を発展させるために日本人から学ぶべきことがある」など日系企業で働く動機付けを話す場面もあった。同社では今後、周辺国にも広げたいとしており、人員を増やす計画であることも紹介された。

同番組(約12分)はインターネットで視聴できる。  
URL: <https://www.youtube.com/watch?v=FgHAK3RMjw>



JETRO経済情報番組より